

先人から連綿と守り継がれた
地元の貴重な文化遺産

お薬師様

●徐病・安産の鹿原薬師堂『お薬師様』

地域に残る貴重な文化遺産であり、古来から『お薬師様』と呼ばれており、地域の守護神、信仰の中心としてあがめられ、特に徐病・安産などにご利益があることから遠方からの参拝の方もお見えになっています。

いまだに完全な終息が見とおせない新型コロナウイルス感染症のなか、どなた様もお気軽に参拝や祈願にお越し下さい。

○薬師如来

薬師如来は大乗仏教において病氣平癒等の現世利益に効験のあるとして信仰され、薬師如来を本尊とする寺院や仏堂が日本各地に存在しています。鹿原薬師堂「お薬師様」は、四百有余年に亘りお堂の本尊「薬師如来」を現世における現実的な願ひ事、特に病を癒すための精神的支えとして信仰されてきたこととす。

薬師如来の正しい名称は「東方淨瑠璃教主薬師瑠璃光如来」で、「東の方向へ、多くの仏国土を通り過ぎた淨瑠璃という世界があり、その教主が薬師如来である」と訳すことができます。

薬師如来像の特徴としては、右手は施無畏(せむい)の印、左手は与願(よがん)の印を結び、その左手に薬壺(やくう)を持つておられます。薬壺には、体や心の病、社会の病を全て治してしまふ霊妙なる教えの薬が入っており、この教えの薬とは、お釈迦さまによって説かれた仏教そのものであり、信仰によっていただくご利益があると言われています。

●鹿原薬師堂



●薬師如来像



○薬師如来のご真言

“おんごころん せんたり

まじつき そわか”

ご真言とは、古代サンスクリット語の『マントラ』を漢訳した「真実で偽りのない仏の言葉」であり、このご真言の意味は「帰依し奉る、病魔を除きたまえ払いたまえ、センダリやマトーギの福の神を動かしたまえ、薬師仏よ」となるようです。

本来、ご真言は翻訳せず音写を用いて唱えることで、様々な苦難から救われると言われているため、一心に口に出し念じ続ける心境が最も仏に近く、あらゆる功德がその称(なまえ)の中に含まれていることなのです。

□令和五年の行事予定

◆夏大祭 令和5年7月8日(土曜日)



皆さまの願いを大願として、堂主千眼寺住職によるご本尊『薬師如来』さまへの祈願法要です。

◆例会(お薬師様祭日) 毎月8日



毎回のお勤めや保存に向けた熱心な討議が行われています。

◆祖原獅子舞い(夏越祭り) ... 令和5年7月15日(土曜日)



地域の安寧と住民の健康を願って、連綿と受け継がれた行事で紅葉八幡宮宮司による祈願が執り行われています。[昨年は神事のみ]

◆校区行事ウォークラリーでの一コマ 毎年11月



チェックポイントとして活用され、因みに子どもさんのご真言は「チンブイブイ コロナよ コロナよ 飛んで行け!!」でした。



徐病、健康長寿、家内安全、安産等々のご祈願には、お堂東側にある絵馬かけ所のご利用をお願いします。祈願絵馬のお礼代は、一枚三〇〇円でお賽銭箱にお入れ下さい。

※今後の新型コロナ感染状況などにより、行事や催しなどが中止や縮小される場合がありますので、ご理解の程宜しく願います。感染症対策には万全を期しますが、それぞれ感染対策に留意されてお越し下さい。



祖原薬師堂保存会

所 在 : 福岡市早良区祖原 8 番 25 号
アクセス : 地下鉄西新駅から 距離約 900m 徒歩約 13 分
西鉄祖原バス停から 距離約 200m 徒歩約 4 分

今後とも、地域に残る貴重な文化遺産であり、昔から親しまれてきた身近な「お薬師様」への参拝や祈願、並びに皆様のご支援へのご理解ご協力の程宜しく願います。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

祖原薬師如来（由来）

大永元年（西暦一五二二年）、筑前の早良郡藤原村中尾字上ノ畑（現在地）に瑞雲山龍善寺という寺があった。開山の僧を玄宝禪師といわれる。この寺は世の移るにしたがい次第に頽廢して、寺跡に一禅院だけが残った。此処には弥陀、薬師の二尊擁立の佛像があったという。

慶長十八年（一六一三）、浄徳という僧が、二尊のうち、本尊阿彌陀尊願（古伝に行基菩薩作という）を福岡、東唐人町に還し、改めて一寺を開山、瑞雲山龍善寺を再興したという。

二尊のうち、薬師如来木佛像は、現在の祖原一八二番地（元藤原村中尾上ノ畑）に鎮座される薬師堂の御本尊である。

その後二百有余年。一時期、同村の松林山頭葉寺の守るところであったが、次第に退廃し、長年の間の風雨のため廃絶しようとした。

そんな折柄、文久二年（一八六一）、黄檗宗千眼寺第八世桂山師が、町民と協力して佛像を修復し、堂宇を建てて再興した。

その後、明治末年まで五十余星霜の間に、風雨の被害を受け、破損も甚だしくなった。そこで堂宇再建のため、町民、信者等が相談り、頼母子講を設けて、明治四十五年、堂宇の建設に着手し、大正元年（一九一二）十月に竣工した。更に同十三年、境内、田壁を改修して整備をおわった。

この堂宇建設から今日まで八十年の歳月を経た。其の間、町民と信者は、建物の老朽化と度重なる風雨その他の被害の都度、境内の復旧を併せて修復を重ね、堂宇並びに境内の護持、保存に努めて今日に至った。

古来、住民はこのお堂を「お薬師様」と呼び、この地域の守護神、信仰の中心としてあがめて来た。周辺の住民は無病息災を希って遠く早良、糸島、筑紫、粕屋地方からも参拝者が多い。

毎年、七月八日の大祭は盛大な行事が行われ、数多くの夜店が出る程の賑わいであった。また七月十五日の夏越し祭りでは、悪疫退散を願って昭和三十三年（一九五八）夏迄、町中の壮年、青少年が、揃いのハッピを着て、赤青一対のお獅子を昇り、赤い「そ」の字の入った弓張り提灯を先頭に、勢い水をかぶりながら各家庭を軒並みに廻る、全町あげての勇壮なお祭りであった。

○薬師様祭日 毎月八日、二十一日

○大祭 毎年 七月 八日

○夏越祭り 毎年 七月十五日

【後記】

一、この薬師如来木佛、聖徳太子一乃三礼の霊像と伝えられる。（「早良群志」）
 二、浄徳法師とは、藤原の子孫にして、熊本菊池八代能隆の第四子城越前守隆経の十五代の孫、城久基の後身である。久基は戦乱の世の無情を感じ、十八才にして武士を捨て熊本西光寺の佛門に入り、浄徳と号した。福岡で浄徳が建立再興した寺院には、福岡薬院平尾の鶴城山光専寺、東唐人町の瑞雲山龍善寺がある。（「寺院沿革誌」）

一九九一年

祖原薬師堂研鑽之会

近年、薬師堂の文化財を後世に残すべく、併せて青少年の健全な育成に寄与するための「祖原薬師堂保存会」が組織され、平成五年（西暦一九九三年）には、地域の皆様が中心となり、薬師堂の再建が行われ現在のお堂が完成致しております。

毎月八日は世話人による例会、そして七月八日には年に一度の夏大祭を堂主千眼寺住職のもと厳修し、七月十五日には地域の安寧と住民の健康を願う夏越祭り（獅子舞）を行うなど、多くの方にお参り頂いております。

二〇一三年

祖原薬師堂保存会

■地図



○薬師堂の全景（東側より）



所在：福岡市早良区祖原 8 番 25 号



祖原薬師堂保存会 2023.06



地元に親しまれ **400年** コロナ禍、お散歩で参拝!!

祖原には、地域で四百有余年親しまれ守り継がれた貴重な文化遺産『お薬師様』があります。現在、コロナ禍が長期化し困難な日々が続いていますが、お堂のご本尊「薬師如来像」は、健康面から心の病までご利益があると言われており、お立ち寄りされませんか。少しでも皆様の心の支えになれば幸いです。

どなた様でもお気軽に祈願や参拝頂けます。その際は、それぞれ感染対策をお願いします。一日も早い新型コロナ感染症の収束と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

□ 令和四年度の行事予定

- 例会（薬師様祭日） … 毎月8日 午前中
世話人による法要と定例会を行っています。
- 夏大祭 ……………… 令和4年7月8日（金）
皆様の願いを大願として、ご本尊薬師如来様への祈願法要で、黄檗宗大悲山千眼寺住職導師のもと執り行う予定です。
- 祖原獅子祭り（夏越祭り）…令和4年7月15日（金）
悪疫退散を願い、揃いのハッピーを着て赤青一対のお獅子を昇りて町内を廻るお祭りで、福岡市の無形民俗文化財としても登録されています。

※今後の新型コロナウィルス感染状況等により、行事や催しが中止や縮小される場合がありますのでご留意下さい。

■薬師堂

- ・地域の人々から『お薬師様』と呼んで親しまれており、地域の重要文化遺産です。



■薬師如来像

- ・薬師如来像を中央に、月光菩薩と日光菩薩が左右に脇待され、『薬師三尊』と称されています。
- ・周囲は十二神将で十二夜叉大将ともいい、夜叉を率いて如来様のお手伝いをされています。



■祈願絵馬

- ・疫病平癒、無病息災、健康長寿 家内安全、安全祈願 等々
- ・祈願絵馬は絵馬かけ所へ奉納し、お札代お賽銭箱にお入れ下さい。
(祈願絵馬 お札一枚三〇〇円)



●絵馬かけ所

地元に残る貴重な重要文化遺産です。お薬師様の管理、保存につきましては、今後とも皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。

無病
息災

薬師堂

徐病 幸産の薬師如来

そはら
鹿原薬師堂保存会



■所在地

福岡市早良区
祖原 8番 25号

○アクセス

地下鉄西新駅から
距離約 900m
徒歩約 13分
西鉄祖原バス停
距離約 200m
徒歩約 4分



令和4年6月



■ 地域に残る貴重な文化遺産

そ ほうら 鹿原薬師堂

祖原薬師堂保存会



ご参詣の皆様へ

そほうら 鹿原薬師堂のご紹介

祖原には、地域の人々が『お薬師様』と呼んで親しみ守り継がれた地域の文化遺産薬師堂があります。

早良の人々は、四百有余年にわたりこのお堂のご本尊である薬師如来像を現世における現実的な願い事、特に病を癒すための精神的支えとしてきたところです。

その為、このお堂には一年を通じて参拝者が訪れ、絵馬にも色々な願い事や感謝の言葉等が書かれており、地域の皆様の心のよりどころとなっております。

現在、祖原地区の有志により薬師堂保存会が組織され、後世にこの文化遺産を残す為の活動が行われており、平成五年には、地域の皆様が中心となり、薬師堂の再建が行われ現在の新しいお堂が完成致しております。

毎月八日・二十一日を祭日とし、特に八日は世話人による例会、そして七月八日には年に一度の夏大祭を百道千眼寺住職導師のもと厳修し、多くの方にお参り頂いております。
敷地内には、ご本尊の薬師如来の由来が詳しく記載されておりますので是非一度ご覧ください。

今後とも、地元の身近な『お薬師様』への参拝や祈願、並びに皆様のご支援をお願い申し上げます。

■ 薬師堂（お薬師様）



■ 十三仏



（十三仏修行大師）



■ 薬師三尊（周囲は十二神将）



月光菩薩 薬師如来 日光菩薩
《 - 薬師三尊 - 》

■ 祈願法要（千眼寺住職）



■ 絵馬かけ所



祖原薬師如来（由来）

大永元年（西暦一五二二年）、筑前の早良郡藤原村中尾字上ノ畑（現在地に瑞雲山龍善寺という寺があった。開山の僧を玄宝禅師といわれる。この寺は世の移るにしたがい次第に頽廢して、寺跡に一禅院だけが残った。此処には弥陀、薬師の二尊擁立の佛像があったという。

慶長十八年（一六一三）、浄徳という僧が、一尊のうち、本尊阿弥陀尊顔（古伝に行基菩薩作という）を福岡、東唐人町に還し、改めて一寺を開山、瑞雲山龍善寺を再興したという。

二尊のうち、薬師如来木佛像は、現在の祖原一八二番地（元藤原村中尾上ノ畑）に鎮座される薬師堂の御本尊である。

その後二百有余年。一時期、同村の松林山頭乗寺の守るところであったが、次第に退廃し、長年の間の風雨のため廃絶しようとした。

そんな折柄、文久二年（一八六一）、黄髮宗千眼寺第八世桂山師が、町民と協力して佛像を修復し、堂宇を建てて再興した。

その後、明治末年まで五十余皇籍の間に、風雨の被害を受け、破損も甚だしくなった。そこでお堂再建のため、町民、信者等が相謀り、頼母子講を設けて、明治四十五年、堂宇の建設に着手し、大正元年（一九一三）十月に竣工した。更に同十三年、境内、囲壁を改修して整備をおわった。

この堂宇建設から今日まで八十年の歳月を経た。其の間、町民と信者は、建物の老朽化と度重なる風雨その他の被害の都度、境内の復旧を併せて修復を重ね、堂宇並びに境内の護持、保存に努めて今日に至った。

古来、住民はこのお堂を「お薬師様」と呼び、この地域の守護神、信仰の中心としてあがめて来た。周辺の住民は無病息災を希って遠く早良、糸島、筑紫、粕屋地方からも参拝者が多い。

毎年、七月八日の大祭は盛大な行事が行われ、数多くの夜店が出る程の賑わいであった。また七月十五日の夏越し祭りでは、悪疫退散を願って昭和三十三年（一九六八）夏迄、町中の壮年、青少年が、揃いのハッピを着て、赤青一対のお獅子を昇り、赤い「そ」の字の入った弓張りの提灯を先頭に、勢い水をかぶりながら各家庭を軒並み廻る、全町あげての勇壮なお祭りであった。

○ 薬師様祭日 毎月 八月 二十一日

○ 大祭 毎年 七月 八日

○ 夏越祭の 毎年 七月 一五日

【後記】

一、この薬師如来木佛、聖徳太子一刀三礼の霊像と伝えられる。（「早良群志」）

二、浄徳法師とは、藤原の子孫にして、熊本菊池八代能隆の第四子城越前守隆経の十五代の孫、城久基の後身である。久基は戦乱の世の無情を感じ、十八才にして武士を捨て熊本西光寺の佛門に入り、浄徳と号した。福岡で浄徳が建立再興した寺院には、福岡薬院平尾の鶴城山光専寺、東唐人町の瑞雲山龍善寺がある。（「寺院沿革誌」）

一九九一年

祖原薬師堂研鑽之会

■地図



○ 薬師堂の入口



○ 門前の風景



所在地：福岡市早良区祖原 8 番 25 号

祖原薬師堂保存会 令和3年8月